

事業評価個票（事業実施：平成29年度～令和2年度）

事業名	バリアフリー観光推進事業費					活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度											
部局名	観光文化スポーツ部						宿泊施設・観光公衆施設のバリアフリー整備への支援件数（単年度）	活動実績	件	10	11	0	1												
担当課名	観光復活戦略課 観光振興担当							当初見込み	件	14	4	4	2												
事業開始年度	平成29年度		事業終了(予定)年度		未設定		活動実績																		
総合発展計画実施計画の位置付け	政策の柱、政策	[政策の柱3] 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化 [政策3] 国内外からの観光・交流の拡大による地域経済の活性化				成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標（所管部局の分析）		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度											
	施策	[施策1] 観光地域づくりの推進					成果実績	千人	19,141	20,210	19,711	調査中													
目標指標	観光消費額		2,600億円(R6)		目標値		千人	19,800	20,200	20,600	21,000														
事業の目的	子ども、高齢者、障がい者及び外国人等、誰もが安心して活動できる出かけやすい県づくりを進めるため、不特定多数の人が利用する観光施設トイレのバリアフリー化工事を支援する。						達成度	%	97%	100%	96%														
事業概要	<p>民間事業者が所有している不特定多数の人が利用可能な観光施設トイレのバリアフリー化等改修に要する経費に市町村が補助金を交付する場合に補助金を交付する。</p> <p>○対象：観光地に設置されている公衆トイレ（民間事業者のみ） ○補助対象事業：経年劣化による不具合を解消するための改築・修繕 著しい臭気や非衛生的な環境を改善するための改築・修繕 多様な観光客のニーズに対応するための改築・修繕</p> <p>○実施主体：民間事業者 ○補助対象者：市町村 ○補助額：対象事業費の1/3又は上限1,000千円</p>					活動指標及び成果指標設定の考え方																			
						2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、超高齢社会の進展等を背景に、障害の有無や年齢、国籍に関わらず、誰もが快適に旅行することができる「バリアフリー観光」の必要性・重要性は年々高まっている。本事業は、多様なニーズをとらえ、観光関連施設の利便性・快適性の向上を図り、誰もが安心して快適に周遊できる受入態勢を整備し、「観光立県山形」の実現を確実なものとするを目的としていることから、「宿泊施設・観光公衆施設のバリアフリー整備への支援件数」を活動指標に、「県外からの観光客数」を成果指標にそれぞれ設定した。																			
						事業所管部局による評価・検証（令和3年7月）																			
						<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価</th> <th>評価に関する説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業の目的が県民や社会のニーズを的確に反映し、成果目標の明確な達成手段として位置づけられ、優先度の高い事業となっているか。また、市町村・民間等に委ねることができない事業なのか。</td> <td>A</td> <td>バリアフリー観光の推進は、今後一層重要になっていく取組みであり、全体的に実施すべき事業である。補助事業については、観光施設のバリアフリー化に資するものとなっている。また、民間事業者の取組みを市町村と連携補助している。</td> </tr> <tr> <td>支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。</td> <td>A</td> <td>支出先は市町村となっており、市町村も民間事業者に対し県の補助額以上の連携補助を行うことから妥当である。</td> </tr> <tr> <td>事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。また、類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。</td> <td>A</td> <td>施設整備の業者選定の際には、複数者の見積り価格を比較している。また、当事業は観光拠点地にある観光公衆トイレを対象としており、宿泊施設のトイレを対象としている国の補助事業との役割分担ができている。</td> </tr> <tr> <td>活動実績は見込みに見合ったものであるか。また、整備された施設や成果物などは十分に活用されているか。</td> <td>B</td> <td>4か年でみると、概ね達成できており、見合っている。また、整備された施設は観光拠点地であり、訪れた人に利用されている。</td> </tr> <tr> <td>成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。</td> <td>B</td> <td>概ね達成できており、見合っている。</td> </tr> </tbody> </table>								項目	評価	評価に関する説明	事業の目的が県民や社会のニーズを的確に反映し、成果目標の明確な達成手段として位置づけられ、優先度の高い事業となっているか。また、市町村・民間等に委ねることができない事業なのか。	A	バリアフリー観光の推進は、今後一層重要になっていく取組みであり、全体的に実施すべき事業である。補助事業については、観光施設のバリアフリー化に資するものとなっている。また、民間事業者の取組みを市町村と連携補助している。	支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。	A	支出先は市町村となっており、市町村も民間事業者に対し県の補助額以上の連携補助を行うことから妥当である。	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。また、類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	施設整備の業者選定の際には、複数者の見積り価格を比較している。また、当事業は観光拠点地にある観光公衆トイレを対象としており、宿泊施設のトイレを対象としている国の補助事業との役割分担ができている。
項目	評価	評価に関する説明																							
事業の目的が県民や社会のニーズを的確に反映し、成果目標の明確な達成手段として位置づけられ、優先度の高い事業となっているか。また、市町村・民間等に委ねることができない事業なのか。	A	バリアフリー観光の推進は、今後一層重要になっていく取組みであり、全体的に実施すべき事業である。補助事業については、観光施設のバリアフリー化に資するものとなっている。また、民間事業者の取組みを市町村と連携補助している。																							
支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。	A	支出先は市町村となっており、市町村も民間事業者に対し県の補助額以上の連携補助を行うことから妥当である。																							
事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。また、類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	施設整備の業者選定の際には、複数者の見積り価格を比較している。また、当事業は観光拠点地にある観光公衆トイレを対象としており、宿泊施設のトイレを対象としている国の補助事業との役割分担ができている。																							
活動実績は見込みに見合ったものであるか。また、整備された施設や成果物などは十分に活用されているか。	B	4か年でみると、概ね達成できており、見合っている。また、整備された施設は観光拠点地であり、訪れた人に利用されている。																							
成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	B	概ね達成できており、見合っている。																							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他（ ）					上記実施方法とする理由：観光事業者等の経済活動を側面から支援するため。																			
当初予算額 (単位：千円)	費目 (予算見積書グループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	事業の効率性																		
	バリアフリー宿泊施設収益アップモデル事業	21,159	20,342	-	-	-																			
	観光公衆施設整備支援事業	7,200	-	-	2,000	1,000																			
	旅館等バリアフリー化状況調査事業	6,395	-	-	-	-																			
	計	34,754	20,342	-	2,000	1,000																			
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金						事業の有効性 (達成度)																		
	県債																								
	その他特定財源																								
	一般財源	34,754	20,342	-	2,000	1,000																			
	計	34,754	20,342	-	2,000	1,000																			
						課題・改善点	補助対象となる観光施設トイレを的確に把握・選定し、効果的な整備を進める必要がある。少子高齢化を見据え、高齢者や障がい者等の旅行機会の拡大を目的として、引き続きバリアフリー観光を推進する必要がある。																		

# バリアフリー観光推進事業費（新規）

34,754千円

## 目 的

- 観光事業者等のバリアフリー観光への機運醸成を図り、県民総参加・全産業参加により、宿泊施設や観光施設のバリアフリー化等に取り組み、高齢者や障がい者等の誰もが快適に観光を楽しめる環境整備を図るもの。



## 事業内容

- ① バリアフリー宿泊施設収益アップモデル事業 21,159千円
  - ・ バリアフリー改修や障がい者等受入のための従業員研修、接遇マニュアル作成を行う宿泊施設をモデル的に支援  
補助率1/2 上限額550万円（ハード事業500万円、ソフト事業50万円）
- ② 観光公衆施設の整備支援事業 7,200千円
  - ・ 観光地に設置されている市町村等の公衆トイレの改築・修繕を支援  
補助率1/3 上限額200万円
- ③ 宿泊施設等のバリアフリー化状況調査事業 6,395千円
  - ・ 観光視点によるバリア及びバリアフリー化等の状況調査の実施・情報発信
  - ・ 経営者や従業員の意識向上のためのシンポジウムの開催

## バリアフリー観光推進事業費のR2実績について

○ 不特定多数の人が利用可能な観光施設トイレのバリアフリー化等改修に要する経費に対する補助金の交付

市町村名	補助額	バリアフリー化等改修の内容
鮭川村	1,000 千円	やまがた百名山に指定されている与蔵山及びその周辺の滝群と、大芦沢観光わらび園に訪れる観光客の利便性及び環境衛生の向上を図るため、大芦沢公民館の一部を観光公衆トイレとして補修し、地区住民が利用するための公民館部分と共用することなく出入り可能とした。